

# 生中通針

平成28年11月1日(火)

生駒市立生駒中学校 文責 校長 藤原康成

「口蓋垂」自分の知らないところで人は支えられ、生かされています。

早いもので今年もあと2ヶ月となり、朝夕めっきり寒くなってきましたね。先週あたりから風邪等の症状での欠席や早退する生徒も増えてきました。自己健康管理に気をつけて、これからやってくる冬対策の準備もお願いします。

## ◇2年生「職場体験」

2年生はキャリア教育の一環として、10日(木)11日(金)と二日間、職場体験に行きます。自分たちが通った保育園や幼稚園を始め、医療福祉関係、自動車・バス、パン・ケーキ、ペット、接客飲食、接客販売、図書関係、スーパーコンビニ、美容理容、公共施設、ホテル、消防署、給食センター、ゴルフ場など。48種の施設や事業所で貴重な体験をさせていただくこととなります。日常は当たり前のように出入りしていたところにも、目には見えない苦労や感動、喜びや達成感があり、その仕事の一つ一つが社会や多くの人達にとって、かけがえのない役割を果たしていることに気づいてくれることと思います。多くの方々との出逢いを大切にしてくださいね。

☆一社会人としての自覚と責任をしっかりと持って、今から準備してください。当たり前のことではありますが、「さわやかで元気な あ・い・さ・つ」「ハキハキとした丁寧な言葉遣い」「気持ちのいい返事」「前向きな姿勢」「時間厳守」そして「笑顔」を忘れずに、素晴らしい2日間になることを心より願っています。

以前に職場体験の事情所の方から、言われた事で今も記憶に残っているのが、「ある自動車修理の仕事に男子が行きました。体験の最終日に私がおあいさつに行かせてもらったところ、「このまま雇いたいぐらいや。本当に熱心に仕事してくれた。他の工員の見本になるぐらいや。いい刺激をあたえてもらった。こちらが感謝するぐらいや。是非、高校を卒業して、就職を考えるならここに来てくれたら大歓迎や。」と言っていただきました。車も大好きだったその子は、高校を卒業し、その自動車屋に就職し、今も元気に働いています。」



人の人生は多くの人との出逢いです。素晴らしい出逢いは自分の心意気が大きく左右するようです。誠実に一つのことに取り組む姿勢は実に美しくカッコいいものです。職場体験を通して、どうか今ある日常生活をしっかりと見つめなおし、体験での気づきや教えてもらったことをみんなで学校生活に生かしていきましょう。

「2年生なんか変わったな。」と感じさせてくれることを大いに期待しています。

◇15歳の春・・・社会に踏み出す第一歩・・・自分の可能性を信じて・・・

全国の中学3年生は約116万人います。みんなはそれぞれの進路と向かい合い悩んだり、葛藤したりしています。義務教育を終え社会の一員として自らが考え選択し、目標に向かって巣立っていく年齢でもあるのです。

\*私の15歳は実家の兵庫を離れ、まったく土地勘のなかった岐阜県での高校生活を選択しました。当初は不安・寂しさ・恐怖の毎日。寮生活でも全てが初めてのことばかり、食事づくり以外の家事はすべて自分でするのは当然です。でも慣れないことに戸惑いもありましたが、やるしかないと決心してからは少しずつ手際もよくなり、今もその成果は生かされていると思われています。その時、あらためて家族の有り難さを痛感した三年間でもありました。そして、自分の人生の大きな分岐点であったのとは間違いありません。

進路決定は夢を現実にするためのスタートでもあります。どうか、家族や先生方とゆっくり相談したりアドバイスを参考にしたり、実際に体験してきたことを参考に、最後の最後はしっかりと自分の「意志で決定」してくださいね。あなたが卒業後に通う大切な進路ですから。

\*三年生進路三者懇談会 25日(金)28日(月)、両日終日実施

◇1年生は11日(金)「しごと」の意義を考え勤労観を養うことを目的に、東大阪市(10事業所)を中心とするモノづくりの体験学習を実施します。

東大阪市は、わが国でも有数の工業都市、「モノづくりのまち東大阪」として知られています。市内の事業所数は、6,546事業所で、全国第5位。工場密度では全国1位に位置しています。職人さんの高度なものづくりの世界をしっかりと見て、聴いて、感じてきてくださいね。日本はこうした方々の技で世界と勝負しているんです。



◇一冊の本が・・・人生を大きくも、平凡にもしている気がします。

27歳の頃、田舎の母親から一冊の本が送られてきました。本の題名が少し変わっていて、「バカにはなるまい」東井という小学校の先生が書かれた本でした。正直、当時は本にあまり興味がなかった私ですから、そこから1ヶ月程は、表紙を開けることはなく放置されていました。ある日、その本を手にとりトイレに入り、1ページめくると「私を私に育てる責任者は私」ページいっぱい書かれていました。小さな単行本で150ページ足らず、ちょっと続きをめぐってみると、今まで持っていた人生感覚、教師としての見方や在り方がひっくり返るほどストレートに心に響いてくる内容でした。当時、2年生を担当していた私は大変傲慢で、ある卒業生に聞くと「先生、毎日怒ってたなあ」と言われるくらい確かに毎日ピリピリしていたと思います。ゆとりも余裕もなく、ゆっくり生徒の話聴く耳も持っていなかったと思います。大反省です。バカな私を見つめ直す、大きなきっかけをつくってもらった本なのです。ちょっとはバカな人間にならずに済んだかも知れません。

職員玄関を入ったところに掲示している詩も東井先生の書かれたものなんです。私の原点なんです。みんなにもいい出逢いいっぱいして欲しいな。